



東 俣 野

12月号

東俣野小学校 学校だより

平成26年12月2日

若い頃の思い出より

校長 村田 幹男

映画俳優の高倉健さんが亡くなりました。誠実に、強く生きる高倉さんの役柄は、立っているだけで絵になり、大好きな俳優さんでした。

大学生のとき「幸せの黄色いハンカチ」を中学時代からの親友と一緒に見に行き、以来、高倉さん主演の映画は、よく見に行ったものです。その親友とはもうずっと会っていませんが、彼も高倉さんの大ファンで、映画の中で高倉さんが着ているスイングトップ（ジャンパー）を二人でさがして買いに行ったほどでした。

彼には、私の結婚式の時、友人代表としてスピーチをお願いしました。私の失敗談をたくさん暴露して会場を笑わせた後、「偉い先生にならなくていいから、いい先生になれ」と締めくくってくれました。

あれから30年ほどたった今も、「いい教師」とはどういう存在なのか、明快な答えは私には出せませんが、次のようなことは大切だと考えます。

- 子どもの側に立つ教師（同じ人間として子どもの目線で見、それを教師の目線で改めて見直して方向付けできる）
- 分かる楽しい授業を求め続ける教師（分かる楽しさ、できた喜びを体験させる）
- 学級・学年経営を大切にする教師（誰もが認められ助け合いや思いやりのある楽しい学校生活を送らせる）

これらが備わっていることにより、子どもも保護者も安心して「慕われ信頼される教師」になるのだらうと思います。学校現場もあわただしい毎日ですが、私も含め、今の課題は何かと、職員みんなでも振り返ってみるつもりです。